

074381-000-4

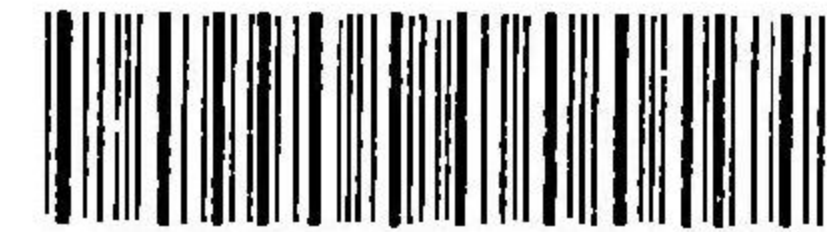
特67-718

ちゃんちゃん痴氣敗軍くどき

松成 保太郎 / 刊

M27

CEI-1633



ちゃんちゃん痴氣敗軍くどき

「荒きサア。荒き波濤を越へたる國よ。最も稀なる騒動が御

座る。國は何處よと尋ねて見たら。國の未開の朝鮮國よ。頃

花咲く三月末は。パット蜂起し東學黨は。非道極まる官吏

狙ひ撃つ殺じつする有様に捨て置ぬと朝鮮政府。賊徒征

伐はかりしなれど。彼れは日に増し人数がふへて。逆も征伐

覺束なしと。評議まぢくして居る處へ。支那の惡漢袁世凱

が。私に任せろ鎮靜て遣ろと。甘く胡麻化し自分の國へ。兵を

よこせと電信かけた。すると支那兵牙山へ來たり。是を見る

より大鳥公使。さてい支那人東學黨を。討と見せかけ此朝鮮

を。握る心と看ぬいたからは。我は義に依り朝鮮國を助力遣

らぬば心が濟ぬ。さうじゃ〜と云ふより早く。多く兵士を招がれました。尙も朝鮮政府に向ひ。國を治める其方法を。割つ口説つ勸告せしが。豫て支那人袁世凱と。心合する閩族共が邪魔。邪魔して公使の注意。水の泡立つ豊島沖で。無禮なしたる支那軍艦を。日本男子は只一撃に。沈め捕獲し凱歌を唱ふ。是る日本とちやん〜國と。鋒を交へる騷動の最初。支那の素より朝鮮國は。自が國より地續なれば。常に出這入道案内も。土地の者より能く知る位。なれば日本を小馬鹿。なして。船で負ても陸戦なれば。屹度勝升受合升と。止せば能いの。にアノ李鴻章。欲をかゝいた受負戦争。何で勝利が見らる。物予。日本兵士の鋭い腕。一も二もなく。成敵始め。根據

牙山も忽ち追れ。命から〜狼狽逃た。跡も残りし分捕品の中に見よく。官妓の寫真。外もあかしな手紙が御座る。是は何よと開いて見たら。牙山支那兵大將なりし。葉志超とか云ふちやん〜の。宿の妻より送りし。多よ。文句如何にと尋ねて見たら。貴君戦地へ。出の後。朝な夕なに佛に向ひ。武運長久功名手柄。無事で分捕澤山なされ。早く御歸國有升やうと祈り進せ候。〜此様な工合な手紙で御座る。斯る品をば打捨置て。逃る位。な大將なれば。何で日本に刃が立物か。夫はさておき身の程知らぬ。多勢たよりの支那兵。ともい。要害堅固の。アノ平壤に。二萬餘人で城をばかため。再度敗たる。撃返しするは。茲の場所より外にはない。と待間ほとなく日軍

進み。四手に分れし我兵隊は。今や號令と待其内。ドンと響
 しか、りの號砲。前後左右と敵をば包み。呐喊をつくつてす
 きなく責る。豫て期したる支那兵めらも。必死極めて戦ふた
 れど。鬼も恐る。日本兵の。彈丸に中りて死す者數千。殘る其
 内六百余人。大將左寶貴引從がへて。涙ながら又曰すを聞け
 ば。是さ日本の軍人様よ。慈悲じや情じや功德で御座る。命斗
 りの助たべと。お拜哀さ六百余人。ワット泣出す涙の雨は。
 落ちて流れて波立さわぐ。大孤沖にて又支那艦が。無駄を知ら
 ず。戦を開き。我に撃れて數艘を沈め。殘る艦さへ最役た
 ぬ。實に勇々しき我軍隊は。世界無類と名譽を殘す

尙追々出版候海外迄御評判

ちやんも痴氣ひとつとふし

一ツとせ 人に勝れて日の本は

仁義武勇に強い國

その名も
たか志

一ツとせ 深い巧みを見破られ

其身はろほす兵を擧

この支那
政府

三ツとせ 見るも哀なちやん坊主

豊島牙山のいくちやん

このじやく
すよ

四ツとせ 密ひそるとさはると支那兵しなへいの

弱よわい話はなしは絶たはせぬ

このちやんく
ばうず

五ツとせ いつもなからの負まいくさ

生なまた甲斐かひなき李鴻章りこうしょう

このおひ
ぼれよ

六ツとせ 夢中むちゆうで消光くわうせし朝鮮てうせんも

今いまじや開化かいに近ちかずいた

こりやわが
あかげ

七ツとせ 泣なみてれがんで詫わるなら

何なんて手て向むかひしくさるぞ

八ツとせ 役やくに立たない南京丸なんきんだまを

發はなしちや逃にげ出す意氣地いきちなし

このちやん
さちりん

九ツとせ 茲こゝの戦たたかひかしのいくさ

逃にげる手際てさばはぬらいもの

この志こゝろな
ばうず

十とせ どうぞの手當てあてに目めをくれて

死しに、出でて來くる阿房あぼうめら

この馬鹿ばか
支那人しなじん

一ツとせ 人よ先立わか公使

朝鮮改革大當り

この義の
つよき

二ツとせ 不爲めを謀りし閔族は

天網のかれす島なかし

このごく
どうめ

三ツとせ みれん残して逃たゆる

終に仲間に殺された

この衰世
ちやん

四ツとせ 余處の國まで日の丸の

光を輝きかくれなし

この勢
ましま

五ツとせ いつまで野蠻て置物の

頓て開化にして遣るる

このせい
こくを

六ツとせ ひせうやたらよ欲張て

國を失なふ支那政府

この馬鹿
そろい

七ツとせ 何百万人向ふとも

日本兵士に勝よふぞ

馬鹿ちやん
くばうぞ

五

四

八ツとせ やたらに命をれしがりて

逃るばかりか能じやない

このおくびやう
ちやんく

九シとせ 爰邊で降参した方か

國の爲めなり身の爲めよ

この支那
政 府

十とせ 兎角はなれぬまけれしみ

猶も双向ふめくら蛇

このりこう
しやう

一ツとせ 人の笑ひも世の義理も

欲に目のかい支那政府

このあはれ
さよ

二ツとせ ふたをする爲め袁世凱を

そこで殺した李鴻章

やれ馬鹿
らしや

三ツとせ 密議をこらした軍略も

孫吳の齒垢でやくた、ず

支那めつちや
めちや

四ツとせ よせはよいのに船いくさ

またも澤山しづめられ

ア、
七 清 艦 隊

五ツとせ 五ツ六ツから國の爲め

命おしまぬ日本人

このたの
もしる

都々一

一勢するどきアノ大鳥に

ナンテ豚尾が勝たれやう

一世界なびかす神風起り

南京虫なぞ鑿ろし

明治廿七年十月二日印刷
明治廿七年十月廿八日發行

東京市淺草區茅町二丁目五番地
著述印刷兼發行者 松成保太郎

ちやんく 痴氣 義太夫 支那が錯の段

ちやんく 痴氣 大悟敗チヤリ 義太夫 十死因の段

ちやんく 痴氣 清將始終不法 義太夫 十死因の段

ちやんく 痴氣 朝顔日記 大井川の段

ちやんく 痴氣 いくさ都々一

ちやんく 痴氣 浪花ぶし

ちやんく 痴氣 支那左實貴生擒の段

ちやんく 痴氣 敗軍くどき

ちやんく 痴氣 一ツとせ節

ちやんく 痴氣 阿房陀羅經

以上一冊定價金三錢綿繪表紙美本の部

朝鮮實地東錦繪 郵税六組

現成十五版引續き出版す 郵税五枚迄

朝鮮石版美術畫 二

家傳 順氣散 小包三錢 中包五錢

加減 順氣散 六十錢包 ふりだし四錢五厘

大鳥公使の朝鮮軍歌

日清戰 日本海軍の勝利

日清戰 松崎大尉の勇戰

日清戰 以上一冊金三錢郵税二冊迄各二錢錦繪

日清戰 表紙插畫美本

日清戰 明治朝鮮軍記

日清戰 以上一冊金五錢郵税二冊迄各二錢錦繪

日清戰 表紙插畫美本

日清戰 日清戰爭流行畫

日清戰 日清戰爭はうた

朝鮮 日清戰爭手遊畫 數十版

朝鮮 日清戰爭始末 全一冊

發賣所 須原屋畫店

27-15

